

株主の皆様へ

第22期中間報告書

(2011年3月1日～2011年8月31日)

株主メモ

事 業 年 度 3月1日から翌年2月末日まで

定 時 株 主 総 会 5月

基 準 日 定時株主総会 2月末日

期末配当金 2月末日

中間配当金 8月末日

その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日

公 告 方 法 電子公告により行います。

ただし、電子公告を行うことができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載いたします。

株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関
大阪市中央区北浜四丁目5番33号

住友信託銀行株式会社

株主名簿管理人事務取扱場所
大阪市中央区北浜四丁目5番33号

住友信託銀行株式会社 証券代行部

(郵便物送付先)
(電話お問合せ先)

東京都府中市日鋼町1番10(〒183-8701)

住友信託銀行株式会社 証券代行部

0120-176-417

株式会社ティイー

IR窓口: 東京都品川区西五反田七丁目1番1号 住友五反田ビル5F・6F

TEL(03)5719-4775 メールアドレスir@tay2.co.jp

インターネットホームページ <http://www.tay2.co.jp>



株式会社ティイー

Top Interview

トップインタビュー

経営体制一新 及び上半期の 業績について

当上半期は、長期継続的な成長の実現のために経営基盤固めを着実に推進しました。経営陣の刷新をはじめ、タイムリーかつ効率的な経営のための組織体制の変更を行ったうえ、既存政策の抜本的な見直しを図り、「ティツー“もったいない”ファンド」の解散及びアイ・カフェ事業部門を会社分割をし、大幅なキャッシュ・フローの改善による投資資源の確保を行いました。なお、将来成長のための投資先の一つとして新たなEC戦略を検討した結果、「消費者参加型」のマーケティングを実施する新会社「TWO-BASE株式会社」を設立するなど、経営資源の選択と集中を推進してまいりました。

営業の面では、東日本大震災により古本市場及びアイ・カフェの一部店舗の営業に影響がありました。が、迅速な復旧作業等でその影響を最小限に止めることができました。なお、当社店舗の一部レンタル部分を「TSUTAYA」としてリニューアルオープンするとともに、一部の店舗の閉店を行い、将来利益基盤の確保に努めました。

こうした結果、売上高は167億6千9百万円、営業利益は2億7千2百万円、経常利益は2億8千1百万円と、概ね計画通りに推移することができました。なお、会計基準の変更による資産除去債務3億4千1百万円を特別損失に計上すること等により、中間純損失は1億4千万円となりました。

当下半期には、上半期にアイ・カフェ事業部門の会社分割で得たキャッシュで将来のための先行投資を行う予定です。関西地域古本市場1店舗の移転リニューアルを実施するとともに、出店してから一定年数に達した店舗においては大幅な店舗改装を予定しております。なお、「TWO-BASE株式会社」をはじめとする新規事業の創出にも力を入れる計画であります。スタッフの能力向上及び社員の適正な配置等により、店舗効率を最大化することも並行して行います。

しかしながら、アメリカ及びヨーロッパ経済への信頼度下落等による国内経済への影響及び東日本大震災の影響が払拭されない厳しい経営環境が続くことや、アイ・カフェ事業部門の会社分割による売上高減少等により、売上高は370億円（前期比4.9%減）を見込んでおります。利益面におきましては、上記の先行投資の一部が費用化される影響等により、営業利益は7億円（前期比21.7%減）、経常利益は7億円（前期比20.3%減）を見込んでおります。当期純利益におきましては資産除去債務の計上等はあるものの、1億円（前期比74.4%減）の黒字確保を見込んでおります。なお、今期の配当につきましては、資産除去債務の計上等の影響で中間純利益及び当期純利益は前期実績を下回りますが、中間配当は1株当たり110円と決定し、通期に関しては中間配当110円と合わせて220円とさせていただく予定であります。株主の皆様には今後も変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役社長
堀 久志

Topics

トピックス

アイ・カフェの 会社分割

当社は2011年9月12日をもちまして、当社のアイ・カフェ事業部門を会社分割し、株式会社カジ・コーポレーションに承継いたしました。

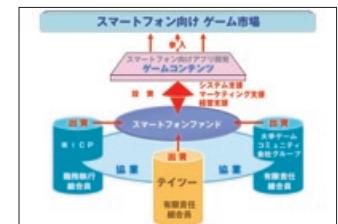
当社の『アイ・カフェ』コンセプトに強く共感いただいた株式会社カジ・コーポレーションより当該事業の移転について誠意ある打診をいただいたことから、『アイ・カフェ』の発展を目的として、当該事業部門を会社分割し、株式会社カジ・コーポレーションに承継することといたしました。

この会社分割は、当社新経営体制のもと既存政策の抜本的な見直しを図り、経営資源の選択と集中を推進する第一歩としてご理解いただければ幸いです。

スマホファンド 参加

当社は今夏から、スマートフォンコンテンツ投資事業有限責任組合（組合の運営管理：無限責任組合員である株式会社アイシーピー）を通じて、スマートフォン向けゲームコンテンツへの投資を行うこととし、具体的な案件投資に着手しました。

今回のファンドは大手ゲームコミュニティ会社もファンドの組合員であることで、コンテンツの成功可能性を高めることが可能なファンドであります。



スマートフォンアプリ市場は成長が著しく見込まれる市場であります。テレビゲームを中心としてゲーム業界に長く携わっている当社は、テレビゲームのみならずスマートフォンゲームなど幅広いゲーム分野のトレンドを吸収し今後の事業戦略に組み込むことで、当社の企業価値向上を目指していきたいと思います。

新規事業のための 子会社設立

当社は新経営体制のもと、これまでの販売・企画ノウハウを活かした新たなEC戦略の検討を重ねた結果、取扱い商品のラインナップ拡大を推進するため、ソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）を活用した「消費者参加型」のマーケティングを実施する新会社「TWO-BASE株式会社」を設立しました。

今般スタートする事業内容は、「消費者参加型」マーケティングを有効に活用し、ペット用サプリメントを販売するものです。販促活動及びマーケティングに関しては日本最大級のペットブログポータルサイト「アセラブログ」を運営する株式会社エス・キューが、ペット用サプリメントの製造に関しては健康食品及び医薬品を製造する備前化成株式会社が100%出資する株式会社PHCが、商品企画、販売などの総合推進はTWO-BASE株式会社がそれぞれ担当いたします。



今年の9月には「アセラブログ」を通じてペット用サプリメントに関するアンケートを実施するなど、商品化のための本格的な動きをはじめております。今後はペットサプリメントを含めEC商材のラインナップ拡大を進めてまいります。

Sales Activities

営業の概況





マルチパッケージ販売事業

マルチパッケージ販売事業におきましては、東日本大震災により新品ゲームの発売が延期になるなどの影響はあったものの、リサイクル商品販売に注力するほかECチャネルをフル活用するなど売上及び利益の最大化に努めてまいりました。なお、業績不振であった古本市場直営店1店舗、ブック・スクウェア直営店1店舗を閉店するなど、利益確保の体制を整備いたしました。

また、古本市場蓮田店（埼玉県）及びブック・スクウェア菰野店（三重県）のレンタル売場を、カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社との業務提携により「TSUTAYA」としてリニューアルオープンし、レンタル商品力向上による売上確保の体制を整備いたしました。

こうした取組みの結果、当該セグメントの売上高は157億9百万円、営業利益は7億8千2百万円となりました。

その他

アイ・カフェにおきましては、東日本大震災でもっとも被害が大きかった東北地方の直営店3店舗の一時的な営業停止がありましたが、迅速な復旧作業を行い、震災影響の最小化に努めてまいりました。また、Family Martにおきましては概ね順調に推移しました。

こうした結果、当該セグメントの売上高は10億5千9百万円、営業利益は5千万円となりました。

以上の結果、当上半期の売上高は167億6千9百万円、営業利益は2億7千2百万円、経常利益は2億8千1百万円となりました。なお、資産除去債務に関する会計基準の適用等に伴う3億4千1百万円を特別損失に計上した影響等により、中間純損失は1億4千万円となりました。

また、2011年9月12日を効力発生日として、当社のアイ・カフェ事業部門を会社分割し、株式会社カジ・コーポレーションに承継いたしました。これにより当下半期の売上高に影響が予想されますが、キャッシュ・フローの改善が見込まれるなど、全社的に大きなプラス効果をもたらすと認識しております。

* 事業の種類別セグメント情報は7ページをご参照ください。



Financial Data

中間貸借対照表(要約)

科 目	当中間期 (2011年8月31日現在)	前中間期(連) (2010年8月31日現在)	前 期 (2011年2月28日現在)
(資産の部)			
流 動 資 産	5,474	5,594	5,962
現金及び預金	978	915	1,452
売 掛 金	309	342	365
商 品	3,498	3,607	3,502
そ の 他	687	728	642
固 定 資 産	5,258	5,409	5,294
有形固定資産	1,934	2,122	1,893
建物及び構築物	1,131	1,159	1,062
そ の 他	803	963	830
無形固定資産	261	316	278
投資その他の資産	3,061	2,970	3,123
差 入 保 証 金	1,575	1,588	1,581
そ の 他	1,486	1,382	1,541
資 産 合 計	10,732	11,004	11,257

科 目	当中間期 (2011年8月31日現在)	前中間期(連) (2010年8月31日現在)	前 期 (2011年2月28日現在)
(負債の部)			
流 動 負 債	3,096	3,114	3,578
買 掛 金	1,127	862	1,438
短 期 借 入 金	—	—	—
1年内返済予定長期借入金	618	892	725
そ の 他	1,350	1,360	1,414
固 定 負 債	2,331	2,505	2,159
長 期 借 入 金	1,063	1,681	1,353
資 産 除 去 債 務	466	—	—
そ の 他	801	824	805
負 債 合 計	5,428	5,620	5,738
(純資産の部)			
株 主 資 本	5,295	5,275	5,493
資 本 金	1,165	1,165	1,165
資本剰余金	1,119	1,119	1,119
利 益 剰 余 金	3,259	3,239	3,456
自 己 株 式	△ 249	△ 249	△ 249
評価・換算差額等	0	△ 3	△ 2
新 株 予 約 権	8	28	28
少 数 株 主 持 分	—	82	—
純 資 産 合 計	5,304	5,383	5,519
負債純資産合計	10,732	11,004	11,257

ポイント
解説
1

資産除去債務に関する会計基準の適用に伴い、今期から資産除去債務を計上しております。

中間損益計算書(要約)

科 目	当中間期 (2011年3月1日から 2011年8月31日まで)	前中間期(連) (2010年3月1日から 2010年8月31日まで)	前 期 (2010年3月1日から 2011年2月28日まで)
売 上 高	16,769	18,096	38,897
売 上 原 価	12,037	13,143	28,933
売 上 総 利 益	4,731	4,952	9,963
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	4,459	4,622	9,069
営 業 利 益	272	329	894
営 業 外 収 益	47	32	68
受 取 利 息 及 び 配 当 金	2	3	6
そ の 他	44	29	62
営 業 外 費 用	38	48	84
支 払 利 息	20	26	51
そ の 他	18	22	33
経 常 利 益	281	313	878
特 別 利 息	25	12	15
特 別 損 失	492	8	151
税引前中間(当期)純利益又は損失(△)	△ 185	316	742
法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税	△ 45	156	382
法 人 税 等 調 整 額	—	—	△ 31
少 数 株 主 利 益	—	1	—
中間(当期)純利益又は損失(△)	△ 140	158	391

ポイント
解説
2

東日本大震災の影響を最小限に止めたものの、新品ゲームの新作タイトルの発売延期等により、売上高及び利益が前期比で減少しました。

ポイント
解説
3

資産除去債務に関する会計基準の適用による特別損失3億4千1百万円の発生の影響等で中間純損失を計上しました。

Financial Data

事業の種類別セグメント情報

当中間期 (2011年3月1日から2011年8月31日まで)

	マルチパッケージ販売事業	その他	小計	全社費用	合計
売上高					
外部顧客に対する売上高	15,709	1,059	16,769	—	16,769
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	15,709	1,059	16,769	—	16,769
営業利益	782	50	833	△ 560	272

前中間期 (2010年3月1日から2010年8月31日まで)

	古本市場事業	アイ・カフェ事業	EC事業	消去又は全社	連結
売上高					
外部顧客に対する売上高	16,562	1,314	219	—	18,096
セグメント間の内部売上高又は振替高	1	9	19	△ 31	—
計	16,564	1,324	239	△ 31	18,096
営業利益	773	54	10	△ 508	329

ポイント 解説 4

今期からマネージメントアプローチに基づいた開示を行うため、セグメントの変更を行っております。

(注)前中間期のセグメント情報につきましては、連結数値での記載となっております。

中間キャッシュ・フロー計算書（要約）

(単位：百万円)

科 目	当中間期 (2011年3月1日から 2011年8月31日まで)	前中間期(連) (2010年3月1日から 2010年8月31日まで)	前期(連) (2010年3月1日から 2011年2月28日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	102	311	1,790
税金等調整前中間(当期)純利益	△ 185	316	738
減価償却費	291	300	610
その他営業活動による増減額	264	△ 190	736
小計	370	426	2,084
法人税等の支払額	△ 248	△ 86	△ 242
その他	△ 19	△ 27	△ 51
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 20	△ 202	△ 340
有形固定資産の取得・売却による収支	△ 45	△ 87	△ 173
無形固定資産の取得・売却による収支	△ 26	△ 104	△ 150
差入保証金の差入・回収による収支	△ 3	△ 2	△ 4
その他	55	△ 9	△ 11
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 555	△ 292	△ 973
短期借入金の借入・返済による収支	—	△ 600	△ 600
長期借入金の借入・返済による収支	△ 397	516	22
その他	△ 158	△ 208	△ 395
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△ 473	△ 184	476
現金及び現金同等物の期首残高	1,368	1,016	1,016
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	894	832	1,492

ポイント 解説 5

中間純損失があったものの、キャッシュ・アウトを伴わない損失等の影響が大きかったため、営業活動によるキャッシュ・フローはプラスとなりました。

(注)前中間期キャッシュ・フロー計算書及び前期キャッシュ・フロー計算書につきましては、連結数値での記載となっております。

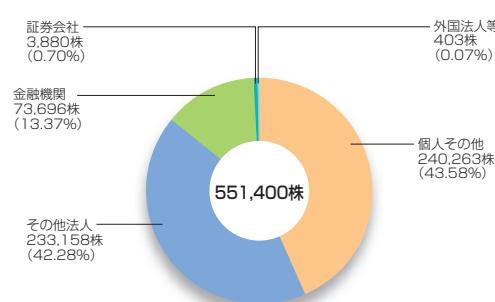
Stock Information

株式の状況／会社の概要

株式の状況 (2011年8月31日現在)

■ 発行可能株式総数	2,000,000株
■ 発行済株式の総数	551,400株 (うち自己株式33,652株)
■ 株主数	5,932名

所有者別株式分布状況



大株主

株主名	持株数	持株比率%
株式会社ワイ・エイ・ケイ・コーポレーション	110,637 株	20.06 %
カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社	77,601	14.07
株式会社山陰合同銀行	21,000	3.80
ティツー従業員持株会	17,854	3.23
株式会社中国銀行	11,000	1.99
東京海上日動火災保険株式会社	10,000	1.81
株式会社みずほ銀行	10,000	1.81
大橋 康宏	8,173	1.48
株式会社トマト銀行	8,000	1.45
株式会社アイシーピー	7,300	1.32

(注) 当社は自己株式33,652株を所有しておりますが、表記しておりません。

会社の概要 (2011年10月1日現在)

商号	株式会社ティツー
英訳名	TAY TWO CO.,LTD.
店舗名	古本市場、ブック・スクウェア、Family Mart
創業	1989年10月
設立	1990年4月
本社	岡山県岡山市北区今村650番111 TEL (086) 243-8600
東京本部	東京都品川区西五反田七丁目1番1号 住友五反田ビル5F・6F TEL (03) 5719-4580
代表者	代表取締役社長 堀 久志
資本金	1,165,507千円
従業員数	414名 パート・アルバイト1,216名

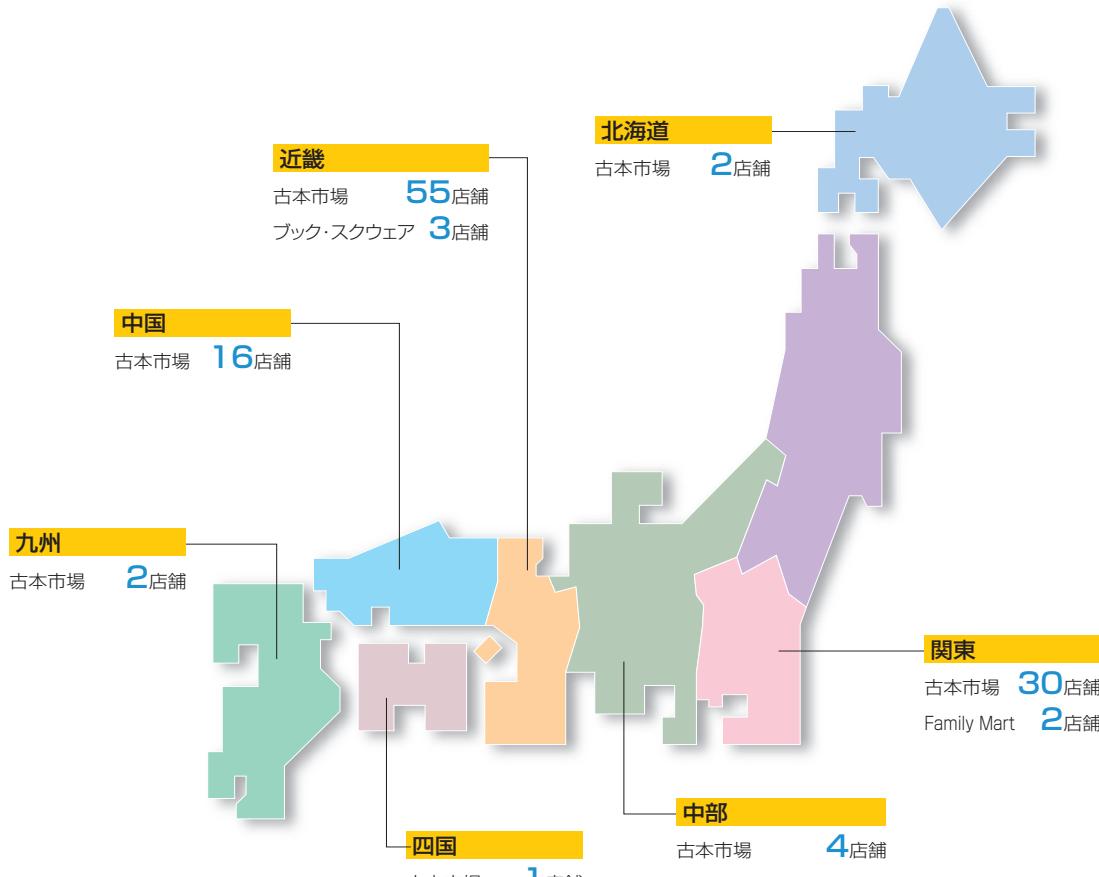
*主な事業内容

古本、TVゲームソフト・ハード、CD、DVD、トレーディングカードなどの販売・買取
及びCD・DVDレンタル業務、Family Mart（コンビニエンスストア）の運営

Network

ネットワーク

(2011年10月1日現在)



※各店舗の詳細につきましては、下記のURLをご参照ください。

<http://www.furu1.net/index.html>